

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度 第 2 回五霞町総合教育会議
開催日時	平成 30 年 3 月 23 日 (金) 午前 10 時 30 分から 11 時 58 分まで
開催場所	五霞町中央公民館 2 階 A 研修室
出席委員	町 長 染 谷 森 雄 (会議議長) 教 育 長 千 葉 道 子 教育委員 増 田 清 教育委員 鈴 木 昇 教育委員 小 村 隆 宜 教育委員 石 塚 和 実
事務局	総 務 課 課 長 山 中 一 郎 主 幹 鳩 貝 浩 之 主 査 中 里 善 匡 政策財務課 課 長 大 関 千 章 副主幹 篠 崎 憲 一 教育委員会 次 長 猪 瀬 英 子 主 幹 山 田 浩 主 幹 堀 山 康 行 主 幹 駒 一 弘
会議次第	1 開会 2 町長挨拶 3 議題 (1) 県内小中学校の動向について (2) 五霞町公共施設等総合管理計画について (3) その他 4 閉会
配布資料	平成 29 年度 第 2 回五霞町総合教育会議次第 五霞町公共施設等総合管理計画 五霞町公共施設等総合管理計画アクションプラン
会議の公開	公開
傍聴人数	0 人

議 事 録

発言者	会議要旨・決定事項
鳩貝主幹	<p>皆様、こんにちは。大変お疲れ様でございます。定刻になりましたので、ただ今から平成 29 年度第 2 回五霞町総合教育会議を開会させていただきます。</p> <p>本日の進行を務めさせていただきます、総務課の鳩貝です。よろしくお願いいたします。なお、この会議につきましては、総合教育会議設置要綱第 6 条の規定によりまして、公開となっていることを申し添えます。</p> <p>今日の会議につきましては、関係課の職員に出席をいただいています。総務課、政策財務課、教育委員会の職員に同席をいただいていますので、報告いたします。なお、会議で発言する際には、お手元のマイクの後ろにスイッチがございますので、スイッチを入れていただいて、緑ボタンになりましたら発言の方よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、まず始めに、染谷町長から御挨拶を申し上げます。</p>
染谷町長	<p>改めましてこんにちは。本日は、平成 29 年度で第 2 回目を迎えます五霞町総合教育会議ということで、皆様方には年度末の何かと御多忙の中、御出席いただきまして大変ありがとうございます。平成 29 年度の教育行政の方も、お陰をもちまして大きな問題もなく順調に推移をすることができました。</p> <p>ちょうど、子供たちも、3 月 8 日の中学校の卒業式を皮切りに東西小学校の卒業式、それから、昨日が川妻認定幼稚園おひさまの卒園式で、これで全部一通り済みまして、それぞれが巣立っていったところでございます。</p> <p>後は、これから教育関係では、先生方の転出、転入等もでございます。そして、新年度に入っていくという流れになろうかと思いますが、平成 29 年度の事業の中でも、特に行政として（行う）教育環境の整備ということで、昨年は全 3 校に空調の設置もさせていただいたところでございます。今後、子供たちの学力向上にもつながるものと大いに期待をしているところでございます。</p> <p>そのような中で、先般、議会の方も終了いたしまして平成 30 年度の予算も承認を頂いたところでございます。</p> <p>特に有識者会議などを開催させていただいておりまして、まちづくりの御提案も頂いています。その中で、特に少子化対策について、現在、卒業式もそうですが、入学式も子供の数が減ってきています。</p>

その中で、子育て支援、また、子育ての不安をどうなくしていくか、これらが行政にとっても大きな課題でございます。

平成30年度におきましても、きめ細やかな子育て支援、これを目標にいろいろな事業を取り入れさせていただいているところでございます。また、広報等で、これらのことについては、皆様方に周知をさせていただきたいと思っております。

平成30年度は、特に社会教育の方で社会教育主事を新たに配置いたします。そして、社会教育の充実を図っていきたいと考えているところでございます。

それから、もう一点、平成31年度の「生き生き国体」に向けまして、五霞町ではデモンストレーションですが、ウォーキング大会を予定してございまして、今年度はそれに向けたプレ大会を予定してございます。これらの対応も、しっかりしていきたいと考えているところでございます。

今日は、特に報告もさせていただきますが、一つが人口減少・少子化対策という中で、学校の在り方をどうするべきかという部分について、国の方からも「地域で協議するように」と御指導いただいております。五霞町は「五霞町の教育の在り方を皆で協議し、検討して方向性を決めていこう」ということで進めてきているところでございます。

この総合教育会議におきましても、平成29年度中に総務課、それから教育委員会で先進地視察もしていただきました。それらについても今日報告させていただきますが、それとともに、町で作りました五霞町公共施設等総合管理計画についても御説明させていただきます。

役場庁舎もそうなのですが、五十数年経ちまして、建て替えの時期にも来てございまして、学校につきましても、いずれ何らかの改修をしていかないとならないのですが、やはり、それらに向けて事業の全体をどうしていくかを検討していかなくてはならない、ということになりますので、それらも今日は説明させていただきます。

また、皆様から忌憚のない御意見を頂いて、今後の町の教育の在り方、また、学校の在り方についてもしっかり進めていきたいと考えていますので、どうか一つよろしく御協議のほどよろしくお願い申し上げます。大変、御苦勞様でございます。

<p>鳩貝主幹</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>議題に入ります前に、本日お配りしている資料を確認させていただきたいと思います。</p> <p>まず初めに、「平成 29 年度 第 2 回五霞町総合教育会議次第」となっている資料でございます。</p> <p>それからもう一つ、「五霞町公共施設等総合管理計画」、「平成 29 年 3 月」と記載のある冊子でございます。</p> <p>さらに、もう一つございます。同じく、「五霞町公共施設等総合管理計画 アクションプラン」ということで、これら三つの資料でございます。</p> <p>それでは、3 番の「議題」の方に入らせていただきます。</p> <p>進行につきましては、会議の設置要綱に基づきまして、町長の進行でお願いいたします。</p>
<p>染谷町長</p>	<p>それでは、早速ですが、会議に入らせていただきます。</p> <p>まず、協議事項 1 でございます。</p> <p>「県内小中学校の動向について」、これは、初めに教育委員会から御説明いただき、その後、総務課から説明を頂きたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
<p>山田主幹</p>	<p>はい。</p> <p>それでは、まず初めに括弧 1 番目、「県内の小中学校の動向」ということで、私の方から御説明させていただきます。</p> <p>着座にて失礼いたします。</p> <p>資料 1 ページを御覧ください。</p> <p>「県内の小中学校の動向」ということで、近年、学校教育現場におきましては、「小中連携教育」、また、「小中一貫教育」といった言葉があり、(このような形態の教育が)進んでいるところでございます。</p> <p>その背景には、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活になじめない、いわゆる「中 1 ギャップ」と呼ばれるものですが、これが解消できるとして、このような小中連携教育、一貫教育というのが、注目されるようになったものでございます。</p> <p>その定義というものが、文部科学省の方でしっかりと定められていまして、「小中連携教育」というのは、「小学校、中学校が、情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す、さまざまな教育」というように定義付けされているものでございます。</p> <p>こちらにつきましては、特に五霞町は、中学校と西小学校が隣接し</p>

ているというような地理的な条件もあることから、大分以前から積極的に取り組んでいるところでございます。

このほかに、小学校間での連携というのも、五霞町につきましては以前から積極的に取り組んでいます。

例といたしましては、九十九里体験交流、また、さしま少年自然の家で東小学校、西小学校の児童が一堂に会して体験活動を行うというような教育が行われているところでございます。

一方で、小中一貫教育というものもございます。

この小中一貫教育につきましては、小中連携教育のうち、小学校と中学校が、目指す子供像を共有するというのが一つのポイントとなります。

小学校と中学校でこれ（目指す子供像）を共有しまして、「9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」というように定義付けられてございます。

続きまして、義務教育学校というものでございますが、この「義務教育学校」という言葉が、新たに、学校教育法の改正で平成28年度から始まりました。

これは、小中一貫教育の基本形として、「一人の校長先生の下で、一つの教育集団が、一貫した教育課程を編成し、実施する9年間の学校」ということで新たに定義付けられたものでございます。

その下（資料1 ページ下半分）に、図が書いてあるかと思いますが、まず、小中連携教育というのは、（全体の）大枠というように捉えてください。

その（大枠の）中の、小中一貫教育ということで、先ほどの定義にもありましたとおり、小中学校が子供像を共有して、9年間を通じた教育課程を編成するというので、その中の一つとして、一つの形として、義務教育学校があるということでございます。

これまでの学校の定義は、学校教育基本法の中で小学校、中学校、高等学校という定義がありましたが、そこに新たに、この義務教育学校という定義が、平成28年度から加わったというものです。

その他として、その（「小中一貫教育」の枠の中）右側の方に「小中一貫型小中学校」ということで、併設型の小中学校の例、また、連携型の小中学校の例というものが、記載されているところでございます。

続きまして、1枚めくっていただきまして、2ページを御覧ください。こちらが、県内の義務教育学校の状況でございます。

まず、一番上から、水戸市にある「国田義務教育学校」です。こちらは、平成 28 年の 4 月、つまり、法律ができてすぐに開校した学校でございます。人数は、1 年生から 9 年生まで、合わせまして 163 人が在籍しています。

続きまして、2 番目のつくば市にある「春日学園義務教育学校」です。これも、同じように平成 28 年 4 月に開校した学校でございます。こちらは、人数が 2,000 人を超えているということで、相当に大きな学校でございます。1 年生でも 300 人ということで、非常に、県内でも大きい学校でございます。

その下、笠間市にある「みなみ学園義務教育学校」です。こちらは、平成 29 年 4 月に開校いたしました。こちらは非常に小規模な学校として、全部で 177 人ということになってございます。

その下ですが、4 番から 9 番までの六つの義務教育学校につきましては、この春、4 月から新たに開校する義務教育学校でございます。

まず、土浦市の「新治学園義務教育学校」です。こちらにつきましては、(表の) 1 番右側の「統合校」という所(欄)に記載がありますが、藤沢小学校、斗利出小学校、山ノ壮小学校、新治中学校(の統合)ということで、全部で 565 人の児童、生徒が在籍する予定となっております。

続きまして、つくば市の「秀峰筑波義務教育学校」です。同様に、幾つかの小中学校が統合し、こちらも相当に大きな学校でございます。(児童、生徒数が) 1,172 人の学校ということで開校予定でございます。

続きまして、その下の 6 番、「学園の森義務教育学校」です。こちらは、先ほどの 2 番の「春日学園義務教育学校」から分離するというので、その分離の区域等の詳細まではつかめませんでしたが、2 番の「春日学園義務教育学校」が、かなり大きな学校なものですから、ここから分離して新たな義務教育学校が設立されるというものでございます。

続きまして、7 番、やはり同じつくば市です。「みどりの学園義務教育学校」です。(児童、生徒の) 人数につきましては、1,695 人の比較的大きな学校でございます。

続きまして、8 番、河内町にあります「かわち学園義務教育学校」です。(児童、生徒の) 人数が、518 人でございます。こちらにつきましては、総合教育会議でも事務局の方で視察の方を行ってききましたので、詳細につきましては、この後、説明をさせていただきます。

	<p>続きまして、9番、県西で唯一の義務教育学校である「桃山学園義務教育学校」です。桜川市の学校で、(児童、生徒の)人数につきましては、804人ということになってございます。</p> <p>学校関係についての説明は、以上でございます。</p>
鳩貝主幹	<p>それでは続きまして、総務課の方から、河内町の視察に行ってきた内容を御報告させていただきたいと思えます。</p> <p>着座のままで失礼いたします。</p> <p>まず、資料の3ページを御覧いただきたいと思えます。河内町における、小・中(学校)統合に関する先進地視察の報告ということで、昨年の11月6日に教育委員会と総務課の職員とで、視察をさせていただきました。</p> <p>当日は、河内町の教育長、それから教育委員会の職員の方たちから話を聞いてまいりました。また、その後、学校の方の視察もさせていただいたところでございます。</p> <p>まず、初めに、「河内町及び学校統合の概要」ということで、資料に書かせていただいています。河内町の人口につきましては、視察当時は約9,200人で、(平成30年)2月末では約9,087人ということで、(視察当時と比べて)若干減っている状況で、年々減少が続いているということでございます。</p> <p>町の面積につきましては、44.32平方キロメートルということで、特に東西に約19キロメートルと、横に長い町でございます。</p> <p>そのような中で、統合の概要でございますが、当時、この統合に当たっての事務につきましては、教育委員会事務局で一人増の3人体制で、検討の方を進めてきたということでございます。</p> <p>平成29年の4月に、まず、中学校の方が統合されました。場所につきましては、町域の中央に新たな校舎を建築して、今年の4月からは、その新校舎に三つの小学校を更に統合して、小中一貫校になるということでございます。</p> <p>2の「統合に至るまでの経緯」でございますが、まず、平成18年に「学校統合検討委員会」が発足しました。この当時は、行革の一環として、行政の主導で統合の話が出てきたということを仰っていました。</p> <p>その当時は、小学校が4校ございまして、これを2校に、中学校については2校を1校に、というような検討を進めていくという話でございました。</p> <p>そのような中で、まず、平成24年に小学校の方を先行して統合す</p>

るということで、源清田小学校と長竿小学校とが統合されて、みずほ小学校が開校されたということでございます。

その後、平成 25 年には、町長の諮問機関である有識者会議が発足しまして、統合が進められたということでございます。「既存の学校に統合を」という話で進めてきたところですが、先ほどありましたように（河内町は）横に長い町ということで、非常に地域でのまとまりが難しかったということです。

また、平成 25 年 5 月に町長選挙がございまして、「既存の学校から新たな学校を作って、そこへ統合する」というように方向が変わったということでございます。

その後、平成 26 年には、この有識者会議からの答申もございまして、学校統合の基本計画が作成されまして、そこで「小中一貫校を目指すことになった」ということでございます。さらに、同年、臨時議会の方でも、新築される学校の設計も可決されたということでございます。

住民説明会、意見交換会、更にはアンケート等も実施したということで、アンケートの結果では、「統合に賛成」が 70 パーセントというお話でございました。

その後、平成 29 年 4 月に、中学校 2 校が 1 校に統合されました。そして、この（平成 30 年）4 月から小学校 3 校も統合され、小中一貫校が開設されるということで、児童・生徒数については約 500 人、全学年とも 2 クラスと聞いてございます。

そういう中で、議会にも説明を行いまして、更には学校統合準備委員会での会議も行われ、準備委員会では 18 か月で 29 回の会議が開催されたということでございます。また、準備委員会における専門部会での協議、そのほか、先進地の視察等も実施してきたということでございます。

続きまして、3 番の「小中一貫校開設に向けた課題」ということで、資料の 3 ページから 4 ページまで、全部で四つに分けてございます。

まず一つが、学校運営についてございまして、やはり、「教職員の人的な配置というものが課題となっている」ということでございます。

学校が一つになりますので、校長会等もなくなります。郡の校長会等については、「小学校の方に属した方がいいのか、又は中学校の方に属した方がいいのか、その辺も県と調整している」というようなお話もされていまして。また、教育研究会等も組織がなくなります

が、研究する組織としては置いていきたいというようなお話でございました。

(資料の) 次の「イ」では、事前の児童及び生徒間の交流事業ということで、これも行っていかなければならず、プール学習、野外活動など、これらを通じて、(児童と生徒とが) 交流を持つことで、統合に向けたつながりを作っていきたいというようなお話をされてきました。

三つ目の「ウ」でございますけども、「9年間の学びの連続性を達成するために、教育課程の編成上の工夫、改善等も必要である」ということでございます。

それから、「エ」のコミュニティスクールの立ち上げということで、「学校(関係者に加え)、地域の方も入っていただいて、学校運営協議会のような組織を作っていきたい」というようなお話をされてきました。

次の「オ」でございます。「中期ブロック」ということですが、(全体としては) 小中一貫ですので1年生から9年生までの学年(編制)となってきます。そのような中で、5年生から7年生まで、この中期ブロックでの教科担任制を実施していきたいと仰っていました。

続きまして、資料の4ページをお願いしたいと思います。

学校施設の関係でございます。

まず、給食についてでございます。河内町については、平成19年から完全委託ということで、民間の方に委託をしてきたということでございます。しかし、今回の小中一貫(となること)を機に自校方式にしていきたいということでした。「温かい給食を子供たちに提供していきたい」というようなお話で、この給食施設は、学校施設から1年遅れで建築をしているということでございます。

次に、体育施設、プールでございますが、現在、中学生については、隣の龍ヶ崎市の民間施設でプール学習をしているということでございました。小学校につきましては、それぞれの学校で(プール学習を行う)ということでしたが、このことについても民間(施設を利用する方)がいいのか、又は既存の小学校のプールを利用した方がいいのか、検討しているというお話でございます。

次の「ウ」の再編による校舎の跡地利用でございます。

初めに、平成24年に小学校2校が統合しましたので、そちらの小学校の再利用ということでは「(イ)」に書いてございますが、チョウ

ザメの養殖場として利活用をしているということでございます。また、中学校の跡地をドローンの研究所にしていくというお話でございました。

さらに、学校の備品の再利用、処分等も検討していかなくてはならないということでございます。

次の三つ目が、児童及び生徒の通学方法と手段とでございませう。

現在、河内町の通学方法としましては、小学生については2キロメートル以内は徒歩、中学生については5キロメートル以内は自転車又は徒歩通学というような方法をとっているということでございました。

「(イ)」で、「スクールバスの運行」と書いてございます。まず、一つ目に書いてございますが、全生徒の約3割程度がスクールバスの利用という形になっているということです。ただ、横に長い町ですので、「一番遠い児童だと、学校までバスで最大でも30分程度掛かってしまう」というようなお話でした。

また、現在は、5台で3コースを運行しているということでございます。中学校が3台、小学校が2台という形で運行していますが、これらについても、今後、新たに編成をしていかなければならないということです。

そのような中で、利用者の負担でございませうが、来年度までは無償ですけれども、その後は負担金を徴収する予定であるということです。中学生で、自転車通学をする生徒については、自前で自転車を購入しているという部分もありますので、「負担の公平性という面からも、負担金を徴収するべきではないか」というようなお話もあるということで、(負担金について)徴収する予定で考えているということでございました。

今後の(スクールバスの)運行方法でございませうが、(スクールバスについては)年間300日程度の運行を予定しているということです。登校時は1便、下校時は3便での運行ということで、(下校時は)低学年、高学年、部活動が終わった後の送りということで、合計して3便(の運行)を予定しているということです。

続きまして、「(4)」の「教育環境」でございませう。先ほどのプール学習での水泳指導についてですが、民間施設を利用する場合、必然的に指導の主体が民間のインストラクターになってしまいますが、「本来であれば、先生が安全指導を含めたプールの指導をしていくのがいいのではないか」ということを仰っていました。

また、遊具の効果的な配置と整備、更には体育館の使用の工夫ということで、(全体で) 9 学年になりますので、体育館の使用についても工夫をしていかななくてはなりません。さらに、特別教室等についても有効活用していきたいということでございます。それから、学校に町の公園が隣接してしまして、そちらも教材として活用していきたいということです。また、周辺には農地もありますので、「周辺農地を活用した活動も実践していきたい」と仰っていました。

続きまして、4 番目の「小中一貫校の学校運営について」でございます。先ほども説明させていただきましたが、1 年生から 9 年生までを 3 ブロック、前期、中期、後期に分けるということで、この 3 段階でのリーダーの養成をしていきたいということでございました。

この中で、特に教科担任制という部分では、「中期ブロックからやっていきたい」というお話もされていましたが、「英語教育については、全学年で実施できるように進めていきたいと考えており、先生も確保されている」というお話でございまして、実施をしていく予定であるとお話をされてきました。

それから、部活動への 6 年生の早期参加についても、小中一貫校となったメリットとして、参加が可能となる体制を図ることができるといってお話でございます。

次の 5 ページを御覧いただきたいと思います。

「特別支援教育の充実」としまして、特別支援教育もあるので、こちらの充実も図ってきたいと考えており、さらに、道徳教育、英語教育の方にも教科担任制を実施していく中で充実を図ってきたいと仰っていました。

次に、「かわち学」の新設ということで、社会科の副読本、こちらの方も全面改稿したということで、郷土教育の充実も図ってきたいということでございます。

さらに、教職員の負担軽減を目指した業務の改善と校務分掌の工夫ということで、「校務分掌等も見直しをしていきます」ということです。あわせて、長時間勤務を改善するための具体的な手立ての構築(を行ってきたい) ということでございます。

5 番目では、保護者、地域との連携ということで、PTA の組織、こちら(課題の)一つになりますので、改善をしていかななくてはならないということです。PTA 会費についても金額が違っているということで、統一を図っていかななくてはならないということでございます。

	<p>(資料の) 次の交通安全対策協議会等々、各協議会とも連携しながら、児童及び生徒の安全・安心な学校生活の支援を強化していきたいということです。さらに、道路里親による通学路の除草活動ということで、ボランティア活動とも連携していきたいということです。</p> <p>最後に、学校行事への保護者及び住民の招待ということになっています。</p> <p>最後 6 番目です。「地域社会と学校とのかかわりについて」ということで、先ほども御説明しましたが、「隣接している公園を活用して、地域との交流事業の会場としても展開がしやすい」と仰っていました。</p> <p>さらに、学校の中には、二つの多目的室がありまして、これを利用して交流を図ることが可能であるとのこと。また、子供見守り隊、これは朝の登校の立哨でございます。さらには、未来の会ということで学校の環境整備、これらの活動も維持していきたいということです。</p> <p>最後に、コミュニティスクールメンバーとして、地域の方にも、学校運営に積極的に参加をしていただきたいというようなお話がございました。</p> <p>以上が、河内町を視察してきた内容をまとめさせていただいたものでございます。</p>
<p>染谷町長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今、県内の小中学校の動向について、それから、先進地視察の結果について、報告をしていただいたところでございます。</p> <p>学校の統合については、冒頭申し上げましたが、文部科学省からの指導もございまして、県内でも各々動きがあるようでございます。</p> <p>河内町も(学校の統廃合を)スタートしてから乗り上げてしまって身動きがとれなくなってしまう、もう一度仕切り直しをする形で進めてられました。</p> <p>余り拙速に動き過ぎると誤解を招きかねませんし、とにかく、皆様から十分な意見を頂いた中で合意形成を図っておく、という形が必要かと思えます。</p> <p>そういう中で、この取組(河内町での取組)と視察結果とについて、これらを報告させていただきました。</p> <p>皆様から何か御質問がありましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>増田委員</p>	<p>質問させていただきますが、2 ページの第 1 点目、県内の義務教育学校の数が出ていましたが、これは全て公立学校の統合ということ</p>

	ですか。
山田主幹	はい。全て公立小中学校です。
増田委員	<p>近頃、中高一貫校ということで、大分私立の方（私立学校）が多くなってきましたが、五霞町の人口減少との関係で小中一貫校というものを私も個人的に考えたことがあるのです。</p> <p>ただ、今、少し感じましたのは、非常に（生徒の）数が多い学校があるかと思います。資料の2ページを見ますと、2,695名、800名、また、2,000名という形ですね。</p> <p>仮に、こういった形で統合した場合に、かなりのマンモス校になっているようですが、これだけ大きくなって、果たして隅から隅まで目が届くのか疑問があります。</p> <p>いじめの問題、治安の問題、そういった問題への対応はどうか、という感じがしたのですが、五霞町の場合にはそれほど（生徒数が）多くなるわけがないので、それはそれとして、（学校の統合を）考えてもいいのではないかと思うのですが。</p> <p>先ほどから河内町の問題が出ていますが、国の人口減少の問題で、人口減少に関する総合計画が、増田ひろお氏が座長となって、3～4年前に発足しました。</p> <p>そちらの方に、私も少し出席させていただいたのですが、日本の人口は、このまま行くと何十年後には6,000万人程度、明治時代の頃の人口になってしまいます。</p> <p>そして、茨城の状態を見ましたら、自治体としてやっていけない市町村が出てきます。どこかと言いますと、太子町、河内町、五霞町、この三つが挙げられたわけです。</p> <p>五霞町の人口は、5～6年前で11,000人程度でした。それが、いずれは6,000人程度になってしまいます。早々に、自治体としてはやっていけないということで、太子町、河内町、五霞町が、消滅町村という形で出ていました。ただ、私はそれを考えてみたときに、このようなことを言うのは失礼ですが、太子町、河内町と五霞町とを比較されてたまるかと（思いました）。</p> <p>五霞町の場合は、首都圏にあって、茨城県の玄関口という形で一番人口の多い東京に隣接するわけですから、そんなことはないだろうというように私は感じたのですが、今、河内町の学校の制度の在り方、これをお聞きして、「なるほど、こういうことも一理あるのかな」という感想を持ったわけです。</p> <p>ただ、（学校の統合を）始めたばかりですから、メリット、あるいは</p>

	<p>はデメリットも出てくるかと思しますので、慌てて（学校の統合を）やる必要はないのではないかと思います。</p> <p>以前、教育委員の皆様にも少し話をしましたが、新 4 号国道を江川から行った先、幸手市に吉田小学校という小学校があります。2 校を 1 校に統合してできた小学校らしいのですが、この間、読売新聞のチラシの中に小学校の新聞が入ってきました。1 年生から 6 年生までで 93 人、今年の 3 月の卒業生が 11 人ということでした。</p> <p>それでも、小さい（生徒数が少ない）なりに頑張っているということで、小学校の近隣の住民に聞いてみましたら、10 年ほど前になるかと思いますが、（生徒数が）だんだんと減ってきて、運動会が、生徒だけではすぐ終わってしまうということで、地元の自治会も中に入って、にぎやかに運動会をやっているというような話も聞きました。「なるほど、そういう方法もあるのかな」という感想を持ったところでございます。</p> <p>したがって、五霞のこれからの教育のあり方、それから学校の（統合の）進め方については、余り慌てずに、住民の意見も聞きながら、もう少し慎重に進めていく必要があるのではないかな、というように感じたところです。以上でございます。</p>
染谷町長	ありがとうございます。ほかにございますか。
小村委員	河内町でアンケートを実施して、賛成が 70 パーセントということは、先ほど説明いただいたのですが、アンケートを実施するに当たっての対象者は、父兄だったのでしょうか。それとも、全住民対象でやられたのでしょうか。それが分かれば、教えていただければと思います。
鳩貝主幹	アンケートについては、全世帯に対して行ったというように伺っています。
小村委員	それから、もう 1 点いいでしょうか。 学校の再利用で、チョウザメの養殖場であったり、ドローンの研究所であったりというのは、民間企業に貸し出しているということですか。
鳩貝主幹	小中学校の再利用の審議委員会の中で、公募によって募集をしたという説明もございました。
小村委員	では、残った教室、学校は、全部が使われているということでしょうか。空いているわけではないということでしょうか。
鳩貝主幹	今のところ、この二つです。今のところ、小学校一つと中学校一つですので、まだほかは空いていると思います。

<p>染谷町長</p>	<p>県内の状況を教育委員会から説明いただきました。九つの学校の事例ですが、つくば市や水戸市などは大きい市ではありますが、学校単位となりますと、昔の合併前の単位で来ていますから、非常に小規模な学校になってしまっているという面が、見られるのではないかと思います。</p> <p>また、ただ今、増田委員さんからもありましたように、(学校の統合は) 当然にいろいろなメリット、デメリットが確かにあるわけです。人口減少については、お話があったように五霞町も「消滅可能性のある町である」という話になっていますが、先日出されたデータによりますと、「茨城県の全自治体について、消滅可能性がある」というような話になってきています。</p> <p>茨城県全体で、300 万人が 290 万人を割ってしまったということで、1 年間で五霞町の人口程度が減少しているわけです。(国全体で人口が) 少なくなっているという状況で、この人口減というものは、日本が初めて、世界の中で初めて道なき道を歩んでいくということですから、今は何が正解か分かりにくくなっています。</p> <p>そのような中で、やはり今、一つの大きな体制を変えていかないとならない時期に来ているということは間違いないと考えています。しかしながら、いかに皆さんに御理解を頂いた中で進めるか、これが一番大切だと思っています。</p> <p>意見を出し合っていただくということが、まずはいいのではないかと思います。政治的に「上からトップダウンでやりますよ」と言って実施してしまえば、これは(話が) 早いのですが、学校のことであり、地域のコミュニティのこともありますから、そのことについても考えなくてははいけません。</p> <p>そして、「どちらの学校に統合するのか」という綱引きになってくると思うわけです。五霞町の場合、特に小学校は二つありますから、それもまた一つの課題になってくるでしょう。また、今後、「そのまま存続していくのには、どうするか」というのも、一つ大きな課題になってきます。</p> <p>これは、なかなか、方向性としてしっかりしたものが見えてこないのですが、ただ大切なのは、「次の時代を背負う子供たちをいかに教育していくか」ということですから、やはり、教育環境をどう整えるかが一番問題になってくると思うわけです。その辺を大きな目で見、いろいろと御意見を頂いて検討していただければと思います。</p> <p>総合教育会議の中で、いろいろと話し合いをして、ある程度の理解を</p>
-------------	--

	<p>深めていただきたいと思います。(学校統合の)方向性は、これまでお話ししてきましたとおり、皆様の意見を聞かないとなかなか出せないと思いますので。その辺は、今後、いろいろな手法を出していただいて進めなくてはならないと思っています。</p> <p>教育長からは何かありますか。</p> <p>(教育長からは、特段の意見なし。)</p> <p>この件については、よろしいでしょうか。ほかにも先進地等はあると思いますので、しっかりとした研修をしなくてはなりません。この会議をもって、情報をお互い共有していただきたいと思います。</p> <p>では、この件については以上とさせていただきます。続いて「2」の五霞町公共施設等総合管理計画について政策財務課から説明願います。</p>
大関課長	<p>皆様方には、日頃からお世話になっています。公共施設関係の担当をしています、政策財務課の大関と申します。もう一人の職員は、篠崎と申します。本日は、よろしく願いいたします。</p> <p>私たちが、本日、御説明させていただくことは、「公共施設の今後のあり方」というテーマでございます。教育委員の皆様方には、少し前になりますが、平成28年9月末の(教育委員会)定例会閉会后に、「五霞町公共施設等の現状について」というパンフレットを用いて御説明申し上げた経緯がございますが、この時期に至りましたので、改めて(御説明)申し上げたいと思います。</p> <p>私たちの課については、町有財産(の管理)、さらに、財政、政策ということの中では、各種施策という所で所管する部分がございますので、大きくくりな部分の中の一部という形で御説明申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>社会の高齢化と、さらに、人口減少とにより今後の社会保障費については、増大する一方になります。一方、公共施設については、造った時代が高度成長期以降ということで、ほぼ同じ時代になっていますので、修繕・更新費用も増大することになります。</p> <p>社会保障費、修繕・更新費用が増大し、今までにないくらい歳出が増えていくということになり、現状のまま施設を維持していくということが、国、県、市町村においても、今後は立ち行かないという現状が明確であります。</p> <p>したがって、以前、御説明申し上げた中身もそうですが、国の</p>

指導では、「各市町村が責任を持って（施設の維持について）計画付けを下さい」とされています。その上で、今後の対応に当たるようにという明確な指示が出ています。

対象となりますのが、役場庁舎、小中学校、公民館、更に大きな物として、水道、下水道施設があり、これら（上下水道施設）には埋設された管渠も含まれます。そういった物に加え、道路、橋などのインフラがございます。

こうした物を単体で建替工事していくのではなくて、先進地の検証も含めて、施設の統廃合による再編といったことも考慮しながら進めていかなければならない、というような視点が必要となってきます。

平成 29 年度末現在の、私たち又は関係課の作業状況については、後ほど御説明申し上げます公共施設等総合管理計画、更にはアクションプランに基づいて、関係各課と政策財務課とが連携して各施設の劣化状況の調査を行い、個別施設計画（の中身）を調整している最中でございます。

平成 30 年度に入りましたら、平成 29 年度の成果として、施設の今後のあり方を具体的に検討していくための考え方を幾つかパターン化し、スケジュール感と合わせてお示ししたいと考えています。いずれにしても、今後、現状説明と話し合いとを行っていくというような予定を持ちたいという考え方でございます。

参考までに申し上げますと、現在、消防署がありますが、茨城西南広域事務組合、広域市町村圏事務組合ということで、構成各市町が、体力（財政規模）に合わせた負担金を支出して運営に当たっています。そのほかにも、水防組合、ごみ処理、火葬場等も事務組合、広域連携という形で、共同処理をしているところです。

それから、町の弱点と言うと少しおかしいですが、町は上下水道施設を単独で持っています。五霞町については、利根川、江戸川、中川、権現堂川という大河川に囲まれていますので、陸続きではありません。このようなことから、霞ヶ浦から上水道を引っ張ってくるのができなかったということで、そのような使用施設を単独で処理している状況となっています。事務組合ではなく、五霞町の財政規模からすると、上水道が非常に重い荷物になっているというのも実情でございます。

一方、ソフト面ですが、既に 75 歳以上の方が入っている後期高齢者の医療制度、これが来月（4 月）で 10 年目になるわけですが、こ

	<p>ういったものについても、都道府県が運営主体となり、各市町村が負担金を支出し、足りない分については税金で穴埋めしているという形で共同運用している状況です。</p> <p>さらに、もう1点、国民健康保険についても来月（4月）からは、県が事業主体となって共同運営していくということで、施設の広域化、（医療・保険制度といった）ソフトについても、共同処理をしていきたいと思います、というような方向に向かっています。</p> <p>こうした状況を組み入れながら、今後、例えば10年又は中長期にわたる町の財政状況に合った、無理をしない公共施設のあり方も調整していく必要が出てきました。言い換えて分かりやすく申し上げますと、一つの施設を複合的に使っていく、シェアをしていくというところでございます。</p> <p>例えば、役場と公民館とを複合化して一つの建物の中に、行政機能と生涯教育機能又は集客機能を併設させる、一体化していくことで、将来にわたるコストを軽減していく。</p> <p>もう一つ言い方を変えますと、台所を一つにして、そこで作って各部屋又はそのフロアで食事をしていく、共同利用していきましょう、というのが現状の考え方のベースでもございます。いずれにしても、将来にわたる経費の軽減（を図る）というところです。</p> <p>いろいろなことを申し上げましたが、利用者である町民の皆様方、関係皆様方の合意形成がまず必要です。そのような考え方を念頭に置いて、今後の町が進んでいく方向性を調整していきたい、という段階に入ったということで、後の資料の説明をしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、担当の方から申し上げます。</p>
篠崎副主幹	<p>政策財務課の篠崎と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>私の方からは、お手元にあります総合管理計画と、色の濃い表紙になっているアクションプランについて、簡単になってしまうかもしれませんが、説明をさせていただきます。</p> <p>まず、総合管理計画ですが、こちらは平成28年度に、まずアンケート（を行い）、庁舎内の委員会、各課長等の皆様が入っている委員会、また、グループリーダーの皆様で（構成する）ワーキングチームで話し合いをしていただきました。さらに、町民の皆様に入っていて、対話の場を設け、いろいろな意見を頂いてきました。</p> <p>2月には、フォーラムを開いて、「こういった計画にしていきます」という話をしていただいています。</p>

こちらの計画自体は、平成 29 年 3 月策定となっています。36 ページ以降は、先ほど申し上げたアンケート、また、対話の場の内容になっていますので、後ほど御覧いただければと思います。

それでは、概要については、課長から御説明いただきましたので、かいつまんでお話をさせていただきます。まず、5 ページを御覧ください。総合管理計画の 5 ページです。こちらでは、先ほど課長からありましたとおり、役場の庁舎から上水道、下水道まで、建物からインフラまでが、対象となっています。

続いて 6 ページですが、こちらは建物についての現状を載せています。下の円グラフを御覧ください。公共施設の用途別延床面積の内訳になっています。これを見ると、お分かりになると思いますが、教育施設が 48 パーセント、体育施設が 7.81 パーセントとなっています。教育施設の面積が多いというのは、ほかの市町村でも見られる傾向になっています。

ここから飛びまして、14 ページを御覧ください。こちらには、基本理念が載っております。3 本ありますので、読み上げさせていただきます。

○安心・安全で活気のある、明るいまちを育みます。

○将来に負担を残さず、次世代へつなぎます。

○対話と協働により、町民と行政が一体となって、まちの未来を共に造ります。

この 3 本を基本理念として、計画を進めてまいります。

続きまして、15 ページを御覧ください。こちらには、基本方針として五つ挙げさせていただいています。こちらも、一つずつ読み上げさせていただきます。

一つ目が、「みんなが使いたい施設にしよう」

二つ目が、「小さい子からお年寄りまで安心・安全に」

三つ目が、「身の丈に合ったものにしよう」

四つ目が、「広域化を進めよう」

五つ目が、「未来に引き継ごう」

となっています。それぞれについては、申し訳ありませんが、後ほど御覧いただきたいと思います。

ページが飛びますが、23 ページを御覧ください。こちらには、各施設の目標を載せてございます。

ページの中頃に、目標として、「将来コストを 50 パーセント削減する」とあります。40 年間の試算合計で約 160 億円とありますが、

こちらは、面積、また、建物の年数を用いて、例えば更新、建て替え等の時期を計算しますと、このままでは40年間で160億円掛かる、という試算を出したものとなっています。

このことについて、「半分の80億円に何とか抑えられないか」ということが目標になっています。年間にしますと、平均が4億円だったところ、2億円の費用にしようというものです。

「そのためにはどうするか」というのが、上の枠の中になります。読み上げさせていただきますと、「単体での建て替えは行わず、統合、複合化を進めます。更新時期よりも前に統合、複合化をした方が、費用を抑制できる場合、また、機能面の向上が期待できる場合は、積極的に検討します。」

二つ目が、「統合、複合化ができない場合は、建て替え前の面積より20パーセント以上削減します。」

三つ目として、「建物の更新等、判断基準に基づき、長寿命化を図ります。」こちらは、方針と判断基準というのがありまして、25ページになります。こちらから建物の判断基準がございまして、基本的には、「予防、保全をしていく」という考え方の中でのサイクルとなります。

31ページを御覧ください。31ページでは、それぞれの施設について方向性を示しています。31ページの下の所に(3)として小中学校がございまして、

読み上げさせていただきますと、

「小規模自治体の強みを生かし、教育拠点の更なる充実の検討をします」

「子供たちが、安全で快適な学校生活を送れるよう、施設の整備に努めます」

「体育の授業や部活動については、B&G海洋センターとの連携を検討します」

「学校の緑豊かな学習環境を保持します」

校舎の空いたスペース（余裕教室）については、「企業、市民団体等への貸出し、地域コミュニティへの開放、他の施設との複合化を検討します」という内容になっています。

こちらの総合管理計画については、先ほど40年という話がありましたとおり、40年間の計画となっています。

では、次にアクションプランを御覧いただければと思います。アク

	<p>アクションプランの 1 ですが、総合管理計画については、先ほど申し上げましたとおり、40 年間の計画となっています。</p> <p>このアクションプランについては、それ（40 年間）を 10 の期間に分けて、「4 年間でどういったことをするか」というものを載せています。</p> <p>前半については、総合管理計画と重なる部分がありますので、省略させていただきまして、19 ページと 20 ページとを御覧いただきたいと思えます。こちらには、西小学校と東小学校とについて、この 4 年間の方向性について記載しています。</p> <p>まず、取組内容については、中規模修繕を行うに当たり小学校統合について検討を行うという形で、平成 29 年度から検討していくというスケジュールになっています。これは、西小学校、東小学校とも同様となっています。設立の方向性については、先ほど総合管理計画で申し上げた方向性と同じ内容になっています。</p> <p>続いて、21 ページを御覧いただきたいと思えます。こちらは、中学校の内容になっています。中学校の取組内容は、体育館及び柔剣道場について、未実施だった中規模修繕を行うとしています。年度別の計画として、平成 29 年度、平成 30 年度は（修繕について）検討し、平成 31 年度には設計、平成 32 年度には中規模修繕を行うとしています。</p> <p>それぞれの計画ですが、「これで決まり」というわけではなく、随時、見直しをして進めていこうというものです。</p> <p>^{ごっぼく}雑駁ではございますが、説明は以上になります。ありがとうございました。</p>
<p>染谷町長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただ今、五霞町公共施設等総合整備計画について、総合管理計画とアクションプランの説明もさせていただきました。今、説明にありましたように、一つは人口減少、そして、高度経済成長期に全ての物（公共施設）が造られていますので、大分年数も経過して、老朽化しています。</p> <p>ちょうど、大幅に改修のできる時期に来ているという中で、「今後に向けて取り組みなさい」という指示が（国から）来ていますので、町としましても、この管理計画を作成させていただきました。その内容について、今、お話をさせていただいたところでございます。</p> <p>説明させていただいた中で、何か御質問がありましたら、お願いしたいと思います。</p>

<p>増田委員</p>	<p>今、本当に素晴らしい、このような事業計画を見させていただきまして、その中で私が感じるのは、やはり、「何をするにしてもお金が必要なのだ」ということです。</p> <p>五霞の人口が増えて、歳入が増えれば、何の問題もないのだと思うのですが、そこが思うようにいかない所なのですよね。豊かなまちづくりをするには、やはり、お金が必要なのだと（感じています）。</p> <p>インター周辺も大分（開発が進んで）、GLPもできていて、インター周辺の開発ができれば、どのくらい町の収入になって、（その分）地方交付税は削られるという話もありますから、実質的にはどのくらい町が使えるお金が入ってくるのか、というような考えを持っています。</p> <p>私もたまにインター周辺に行きますが、例えば、GLPにしても、それから清水建設、インターから降りた一画を見ても、企業を募集しているわけです。ですから、私は、あれだけの大きな会社になりますと、GLPなどは、建てる前から「こういう会社が入るのだ」ということは決まっていて、それから建てるのかと思っていたのですが、完成間近になってからの募集なのですね。</p> <p>企業というのは、「小さくても大きくてもなかなか大変なのだ」ということも感じたのですが、その点については、大きな会社ですので、（企業を募集して）埋まらないことはないと思うのですが、ただ、流通関係（の企業）がどこのインター周辺にもできていて、「こんなに乱立して大丈夫なのかな」と思っているわけでございます。</p> <p>それは、企業の方にお任せするとして、商業施設の関係が、まだ空いているようですが、町民の一人として少し心配しているところです。最初は、「イオンが来る」と言っていたのが、（五霞町の）周り（の自治体）にもイオンができてしまっていて、なかなか誘致が難しいという話も聞いていますが、あの辺の開発は、どうなっているのでしょうか。</p>
<p>染谷町長</p>	<p>まず、全てがそうなのですが、一番大切なのは、財源の確保となってきます。</p> <p>当然、職員にも話をしているのですが、（自治体の運営も）経営ですから、破綻してしまうと、これはもう消滅どころではなくなってしまいます。財政運営が、一番大変だという中で、町も中期の、向こう10年の財政計画を立てさせていただいて、整合を図りながら、いくら「補助金が出るから」と、（公共施設などの）改修について一度に手を付けるわけにはいきませんので、財政計画と合わせた中で、整合</p>

	<p>性を図りながら進めていく、というのが今の状況です。</p> <p>その中で、インター周辺開発も財源確保という意味の中で、非常に大きなウエイトを占めてくるわけですし、今後、固定資産税を含め、財源の安定に相当寄与するのだろうと思います。また、ただ今、御質問が出た商業施設なのですが、造成が今年度の夏頃までで大体完了します。</p> <p>並行して商業施設の誘致も進めているのですが、今の経済情勢は非常に厳しいものです。筑波市、水戸市それぞれ（の市で）大手スーパーが撤退するというような状況が現実にあります。</p> <p>（イオンも）「間違いなく出たい」ということだったのですが、（インター周辺地区の土地の）転用が間に合わず、近隣の（自治体の）中で春日部、越谷の方にできてしまったということでもあります。</p> <p>どこの事業体も商圈を考えます。「何キロ以内にどういう店があるか」ということを考えます。コストコの話が出ますけれども、コストコも五霞町にと言っていたこともあったのですが、今、（店舗が）県内 2 か所にあります。つくば市とひたちなか市ですが、そちらが計画どおりに売上げが伸びていかないということで、いまいち踏み出せない（状況です）。</p> <p>「五霞に来ません」という話ではないのですが、そのままになってしまっています。今は、「ほかの商業施設を」ということで進めているのですが、業務代行方式でやっていますから、MKさんに中心となっていて、まだ答えが出せないのですが、その方向で進めさせていただいています。</p> <p>ただ、今は、そういう厳しい状況であるという中で、どの程度の規模がいいのか、最終的に（焦点は）そこになると思います。皆様が希望しているように、「イオンのような大店舗を」という話は、今は難しいのかなと思います。企業の方が、（出店を）手控えている部分があります。</p> <p>地元の皆さんの「地元で買い物がしたい」という希望をかなえられるような規模がいいのかな、ということをお願いさせていただいています。（地価が）高い土地ですので、（造成が）完了した後の契約の方がお互いにいいことですので、その辺までに、いい方向性が出せればと思って進めている状況です。</p> <p>現時点では、そこまでしか答えが出せない状況です。</p>
増田委員	<p>それから、もう 1 点、通学経路の関係なのですが、今、幸主地区の子供たちは、太鼓橋を渡っているのですけれども、4 号（国道）の工</p>

	<p>事を見ていると、道の駅の所が立体になるのかと思われます。</p> <p>道の駅からは、東小の方に向かって行く、新しい道路ができました。今まで使用していた、元の大澤村長さんの後ろ側（の道路）は閉鎖され、GLPの所に大きな道路と信号とができたという状況を見ていまして、先（の話）になりますが、（小学校が）統合してしまえば話は別なのですが、現時点で考えれば、東小学校の工事地区の子供たちをまた元（の通学路）に戻して、（道の駅の所で道路が）立体になるのであれば、そこを通学路にした方が、便もいいのではないかと思いますので、参考にさせていただければ有り難いと思います。</p>
山田主幹	<p>はい。その点に関しまして、特に幸主地区の子供たちは、今、大分遠回りして通学しています。幸主地区の子供たちの通学路をどう確保するか、ということは、現在、教育委員会の事務局においても非常に（大きな）課題として捉えています。</p> <p>当初は、道の駅の所の交差点は、トンネルのようになっていました。それが平面交差になった段階で、幸主地区の保護者との協議の上、「それでは、冬木橋まで回って遠回りして行きましょう」ということで合意を図りました。「それは、いつまでか」というところなのですが、それに関しましては、先ほど増田委員さんの御指摘のとおり、再度、道の駅の所の交差点が立体になった時、また元に戻しましょうということに進んでいます。</p> <p>ただ、元に戻ったときに、やはり、その下を通るときにかなりの交通量のある道路を2回横断しなければならぬ、という問題点もございます。ですので、その段階の時（再度、道の駅の所の交差点が立体になった時）には、道路担当課、更に保護者等と協議しながら、より安全な方向でということを検討していきたいと現在では考えています。以上です。</p>
染谷町長	<p>ある程度整理がついて、方向性が出ましたら、次を考えていかなくてはならないと思っています。とにかく、子供たちの安全を一番優先しなくてはなりません。</p> <p>太鼓橋から真っすぐ来る所は、今度は（道路の）両側に歩道を付けることで、平成30年度事業で進めるのかと思います。信号も二つが一度に付きましたので、これも有り難いと思います。</p> <p>そのほか、何かございますか。</p>
小村委員	<p>通学の話が出ましたので、今、小学校の下校の時に、役場の方々に見守りしていただいて、大変有り難いことだと思います。以前、松戸市で小学校1年生が、PTAの元会長さんに殺されたというニュー</p>

	<p>スがあったかと思うのですが、その事件を受けて、「松戸市が、ごみ回収車にドライブレコーダーを付けた」というニュースを伺いました。</p> <p>せっかく見守りで回っていただいているので、町で巡回に使用している車にドライブレコーダーを付けていただければ、使わないことがいいのだと思いますが、何かあった場合、不審な車を見た場合などに、後々確認をするときに、そういった所で、残るものがあるかと思えます。</p> <p>それほど（値段は）高くないと思いますので、ドライブレコーダーを設置することで、より一層防犯効果が出るのではないかと思いますので、そういったことも検討していただければと思います。</p>
染谷町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>監視社会、というわけではありませんが、防犯カメラは、町の事業として去年5か所、今は10か所付いています。そのほか、ドライブレコーダーは、パトロールをやっている車両から、今後、設置させていただければと思います。</p> <p>また、今年度、平成30年度事業で、（町内に）全防犯灯が七百余あるのですが、LED化にするという形で、これも今年度事業の中で進めたいと思います。</p>
増田委員	<p>ついこの間、1か月くらい前に、4号バイパスで路上教習車と自動二輪車とが正面衝突しまして、ドライブレコーダーが付いていましたので、「教習車両は、全く悪くない」と（証明できました）。</p> <p>交差点で右折の状態ですと、対向の信号が、黄色から赤になり、青色矢印が出ましたので、右折したらバイクが赤信号で突っ込んできて、教習車両の側面後ろの方にぶつかりました。</p> <p>一命は取り留めたのですが、まだ入院しているようで、大分ひどい怪我をしたようです。</p> <p>ドライブレコーダーを警察に持って行きましたら、教習車両は全く悪くなく、100対0の事故だということになりました。ドライブレコーダーは本当に便利です。</p>
染谷町長	<p>今日、総合教育会議の中で公共施設等の総合管理計画、また、アクションプラン、これらの説明もさせていただきましたが、学校等、教育施設等が約半分含まれています。</p> <p>公民館などを含めると、教育施設が多いものですから、それらを今後建て替えるとなると、「統合又は複合を検討しなさい。そうでないと、補助金の対象となりません。」という、国からの指導もござい</p>

	<p>ます。皆様には、その辺もよく認識しておいていただいた中で、今後、それらの問題についても進めていく必要があります。</p> <p>そのような理由から、今日はこの（公共施設等総合管理計画の）説明もさせていただいたところでございます。町の一財で全てできるなら考慮する必要はないのですが、やはり、補助金を頂かないとなりませんので、そのためには、ある程度、国の制約を受けないとなりません。</p> <p>例えば、役場一つ挙げたとしても、役場と公民館とが一体となっているならば、使いやすいのは間違いありません。そういう方向（公共施設の統合又は複合を図る方向）で国の方も踏み出していますので、今後、国の方針に合わせていかなければなりません。</p> <p>このような面もありますので、皆様には御理解いただかないとらないと思います。この件について、何かほかにございますか。</p>
千葉教育長	<p>県内の小中学校の動向、公共施設等の総合管理計画、アクションプランと説明いただきましてありがとうございます。</p> <p>町内三つの小中学校は、お互いに、施設分離型小中一貫校ということをお話ぐらいに連携しています。そして、五霞町の学習状況、子供たちの状況ですが、胸を張ることができるほど、子供たちの学力は高い水準にあります。</p> <p>ただ、先ほどからの御説明をお聞きしている中で、今の東小学校と西小学校とは、それぞれ昭和 45 年、46 年の頃に開校していますので、（開校して）50 年にはなりません、学校に対する地元の人たちの愛着、私自身も、中学校、また、西小学校でお世話になったことからして、愛着を持っています。</p> <p>しかしながら、（児童の）人数が少なくなっていて、現在、東小学校は9クラスですが、来年は7クラスになります。西小学校は、（近年は）ずっと同じで6クラスです。五霞中学校は、以前は中の弾力化で9クラスを維持していたのですが、それもままなくなってしまう、今年からは6クラスとなっています。</p> <p>インター周辺の開発等のお話がありまして、これで（人口が、ひいては児童・生徒数が）増加する可能性を期待しているところです。やはり、この地域のコミュニティとしての核である学校を大切にしたいと、私は、本当に思っています。</p> <p>先ほどの施設の関係など、いろいろなことを考えながら一人で考えていても、なかなか「こうすればいいのだ」とはいきません。（学校統廃合）検討委員会へ（時限）ぎりぎりになって、どうにもならな</p>

	<p>くなってから「どうしましょう」と（話を持っていく）のではなくて、（その前段で、学校統廃合の方向性、方策などを）話し合う機会があればよいと思っています。</p> <p>今日、皆様の御意見を聞かせていただき、また、政策財務課様からお聞きしたことを皆様と共に検討していきながら、次世代を担う子供たちが、少人数になってきてはいますが、力強く生きていけるように決めていくのは、学校設置者である市町村でありますので、皆様の御意見をお聴きしながら進めていきたいと思っています。</p> <p>今後とも、どうぞよろしくお願ひしたいと思っています。</p>
染谷町長	<p>ありがとうございました。ただ今、教育長から総括いただきましたが、今後、焦ることなく、じっくりと御意見を頂ければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。</p> <p>それでは、「その他」に入らせていただいでよろしいでしょうか。</p>
山田主幹	<p>それでは最後に、この資料の最後に付けました、横長の資料を御覧ください。</p> <p>こちらは、以前の総合教育会議で一度お配りした資料でございます。学校統廃合の検討を進めるに当たって、考え方の案ということで示したものでございます。</p> <p>それでは、今、どのような状況かということを改めて御説明させていただきます。</p> <p>まず、現在は、フェーズ1ということで、事前準備の段階でございます。1番の課題の整理、それから、先ほど総務課の方から説明のありましたとおり、先進地視察等を行ってきました。今後、どのように進むかということなのですが、今後は、フェーズ2に移る予定でございます。</p> <p>「学校統合の可否の検討」ということで、統合する、又は統合しないということも含めた、五霞町の学校のあり方を検討していこうということで、平成30年度以降、動いていく予定でございます。この中で、フェーズ1にあるメリット及びデメリット、これらも含めて一体的に検討していくという方向で進んでいきます。</p> <p>その後、「五霞町は、学校統合が望ましい」という結論に至りましたら、フェーズ3に移っていくというような流れで進んでいくということで、お含み置きいただければと思います。</p> <p>以上でございます。</p>
染谷町長	<p>今後の進め方について御説明いただきました。</p> <p>いずれかの時点で、教育長からもありましたとおり、（学校統廃合</p>

	<p>の) 検討委員会を立ち上げなければなりません。今後、より一層、皆様の知恵をお借りしなければなりません。</p> <p>やはり、話し合う場がないと、なかなか御意見を頂けません。その後、(学校統廃合に関する) アンケート調査などの諸々の作業を行うような流れで、今後、進めていきたいと思えます。</p> <p>それでは、皆様から全体を含めて何かございますか。</p> <p>(特に意見等なし。)</p>
鳩貝主幹	<p>いろいろ御協議いただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、以上をもちまして、平成 29 年第 2 回五霞町総合協議会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>